

# 日韓社会福祉学教育課程の比較検討に対する所見

宋鄭府（尚志大学社会福祉学科教授）

カリキュラムの比較を通じ、日本と韓国社会福祉教育の相違点とそこから得られる示唆明らかにすると以下の通りである。

## I. 日本同志社大学社会福祉学科のカリキュラム

### 1. 学部のカリキュラム

—参考資料：同志社大学ホームページ (<http://ss.doshisha.ac.jp>)

#### 1) 必須科目及び選択科目

##### (1) 必須科目

科目名	単位	科目名	単位
ファーストイヤーセミナー	2	社会福祉学専門家演習Ⅰ	2
現代社会論	2	社会福祉学専門家演習Ⅱ	2
社会問題論	2	社会福祉学専門家演習Ⅲ	2
マスコミュニケーション論	2	社会福祉学専門家演習Ⅳ	2
現代社会と労働	2	社会福祉実習Ⅰ	2
教育文化論	2	社会福祉実習Ⅱ	2
福祉と人権	2	社会福祉実習Ⅲ	2
社会福祉原論	4	卒業論文	8
社会福祉学基礎演習Ⅰ	2	スポーツパフォーマンスⅠ	1
社会福祉学基礎演習Ⅱ	2	スポーツパフォーマンスⅡ	2
社会福祉学基礎演習Ⅲ	2		

##### (2) 選択科目Ⅰ

科目名	単位	科目名	単位
A 郡 (共通科目及び政策、国際関連科目)			
社会福祉の歴史と思想	2	社会福祉政策	2
社会福祉法制	2	社会福祉施設経営論	2
国際社会福祉	4	社会福祉行財政論	2
社会保障論	4		
B 郡 (実践関連科目)			
Social Work 論Ⅰ	4	社会福祉実習Ⅷ	2

Social Work 論Ⅱ	4	精神保健社会援助技術総論	4
Social Work 論Ⅲ	4	精神保健福祉援助技術各論	4
Social Work 演習Ⅰ	4	精神保健福祉援助演習	4
Social Work 演習Ⅱ	4	精神保健福祉援助実習Ⅰ	2
社会福祉実習Ⅳ	2	精神保健福祉援助実習Ⅱ	2
社会福祉実習Ⅴ	3	社会問題実習	4
社会福祉実習Ⅵ	3	国際社会福祉実習	4
社会福祉実習Ⅶ	2		
C 郡 (分野、地域関連科目)			
NPO,ボランティア活動論	2	家族福祉論	2
児童福祉論	4	公的扶助論	4
障害者福祉論	4	医療福祉論	2
高齢者福祉論	4	司法福祉論	2
地域福祉論	4		
D 郡 (福祉関連及び国際関連科目)			
Gender と社会福祉	2	精神保健福祉論	4
福祉社会論	2	公衆保健学	4
医療一般	4	精神保健学	4
介護概論	2	社会統計学Ⅰ	2
精神医学	4	社会統計学Ⅱ	2
精神科 rehabilitation 学	4	社会福祉特講	2
E 郡 (外国書籍講読)			
外国書講読 (英語)Ⅰ	2	外国書講読 (フランス語)Ⅱ	2
外国書講読 (英語)Ⅱ	2	外国書講読 (中国語)Ⅰ	2
外国書講読 (ドイツ語)Ⅰ	2	外国書講読 (中国語)Ⅱ	2
外国書講読 (ドイツ語)Ⅱ	2	外国書講読 (韓国語)Ⅰ	2
外国書講読 (フランス語)Ⅰ	2	外国書講読 (韓国語)Ⅱ	2

(3) 選択科目Ⅰ

—専門科目を補完するための関連科目

科目名	単位	科目名	単位
福祉科教育法 A	2	福祉科教育法 B	2

## 2) 卒業に必要な単位

必修科目	選択科目Ⅰ	選択科目Ⅱ	選択科目Ⅲ		合計
50 以上	A-E 各郡別 4 以上、合計 24 以上	24 以上	英語 8 以上	英語以外 4 以上	124
74					

### 3) 日本同志社大学のカリキュラムの特徴

日本のカリキュラムを韓国のそれと比較すると、その特徴は以下の通りである。

—カリキュラム全体として、韓国のそれに比べ、学生の選択の幅が広く、多様である。

—実践に関連する科目が多く、深化学習ができるように構成されている。例) 精神保健関連科目

—必須科目は理論講義、演習、実習で構成され、特に演習と実習のウェイトが大きく、実務的な専門教育が可能であると考えられる。

—選択科目の場合、韓国に比べ、選択の幅が広く、多様である。

—理論科目の場合、国際的なトレンドが理解できるよう、国際関連科目が設定されている。

## 2. 韓国におけるカリキュラムの特徴と問題点

### 1) 韓国におけるカリキュラムの特徴

韓国におけるカリキュラムの特徴は以下である。

—社会福祉学科はほとんど共通したカリキュラムをもっている。

—10 の共通科目(社会福祉士 2 級関連)と各種分野論の社会福祉科目で構成されている。

—10 の共通科目は理論的基礎を習得するためのものであり、政策分野と実践分野に区別されている。

—基礎理論の場合、学校によっては社会問題論以外に貧困論や福祉国家論が追加される場合もある。実践理論では各分野ごとの福祉以外に、最近登場した学校社会福祉、精神保健社会福祉論、軍社会福祉論、矯正社会福祉論などが追加される場合もある。実習関連Ⅰ、Ⅱもある。

### 2) 問題点

—実践より基礎理論分野に重点が置かれている。実践関連理論においても数少ない基礎科目だけがある(例：実践論、実践技術論)。

—基礎理論も類似した科目が重複しており、深化学習ができない(学生はレベルの低い基礎的な知識だけを繰り返し学習していると感じるかもしれない)。例：社会政策、社会保障、社会福祉法制の一部の内容は基本的に(半分程度)重複している。

—選択科目は分野論が多く、多様ではない。

—分野論の場合、内容の重複が多く(例：児童福祉、青少年福祉)、特に内容が明確ではない科目もあり(例：矯正福祉、産業福祉等)、一つの科目として設定され、その講義に一学期を当てるには内容が必ずしも十分ではない科目もある(例：ボランティア論)

—社会福祉実践家を養成するための基本的な実習・訓練の機会が不足している。

### 3.日本の事例からの示唆

—学生の選択の幅を広げるためには、選択科目の選択肢を増やす必要があるが、単なる拡大より深化学習科目を設けることも顧慮すべきである。

—理論科目の重複を避け、深化学習ができるよう、統合とともに段階を設定する必要がある。  
(例：社会政策Ⅰ、社会政策Ⅱ)

—実習と実践訓練課程の拡大が必要である。

—学部レベルでの外国書籍講読の強化も必要である。

## Ⅱ. 修士課程のカリキュラム

### 1. カリキュラム (参考資料：添付ファイルの英語資料)

—修士課程のカリキュラムを整理すると以下のようである。

科目名	内容
社会福祉体系 (Systems of social welfare) Ⅰ 社会福祉体系Ⅰ演習	福祉国家理論の争点、福祉国家の国際的比較研究 (学生による報告との並行)
社会福祉体系Ⅱ 社会福祉体系Ⅱ演習	社会福祉主要理論及び研究方法に関する検討
社会保障 社会保障演習	日本とアジアにおける社会保障及び社会福祉の最近の争点に関する研究
社会福祉思想と哲学 社会福祉思想と哲学演習	社会福祉価値と哲学の実践的接点に関する探究 (人間の尊厳、ボランティアの概念、社会福祉士の倫理的ジレンマとその判断基準、ケアの倫理や哲学など)
社会福祉調査研究	社会福祉現場における科学的研究方法に対する理解 (研究調査と資料分析の主な方法に関する理解)
地域福祉 地域福祉演習	地域福祉研究の争点と方法に関する理解。演習では事例分析のため研究会議と現場活動への参加。
国際社会福祉	アジアの社会状況と福祉傾向の理解 (中国、韓国、北朝鮮、西南アジアを含む)
ケースワークⅠ ケースワークⅠ演習	
Group work Ⅰ Group work Ⅱ	
Field work	社会福祉理論と実践の結合
Special research in social welfare (社会福祉特殊研究) Ⅲ	近代日本の社会福祉に関する歴史的研究
Special research in social welfareⅣ	老人福祉施設の運営と行政に関する理解

Special research in social welfare V	地域社会共同体に関する研究（地域社会にて相互性、協同意識をどのように形成するかについての理解）
Special research in social welfare VI	現代社会の精神異常と社会問題についての理解
Special research in social welfare VII	社会福祉哲学—価値、倫理、宗教など—に関する理解

## 2. 特徴と示唆

### 1) 特徴

—学部同様、特定のテーマに関する深化学習ができるようになっている。その代わりに、科目の数はあまり多くない。

—個別科目ごとの演習の時間が設けられ、学生の参加が強調されている。

—アジアに関する研究が韓国より強調されている。

### 2) 韓国における特徴

—ほとんどの大学院では、専攻が政策と臨床に大別されており、共通科目と各専攻別の科目になっている。

—学部と違い、学校によってその特性を活かしたカリキュラムの運営という点において差が見られる。

例1)韓国中央大学大学院の場合、多様な科目が提示されている（学校ホームページ、インターネットによる資料）

専攻	科目名
共通科目	社会調査方法論、社会福祉プログラム開発と評価、比較社会政策論、地域社会福祉、貧困と不平等、韓国社会福祉制度論、韓国社会福祉行政論、社会福祉財政、社会統計、上級社会統計、児童保育政策、社会福祉館事業、在宅福祉論、構成主義と家族治療、社会事業理論、家族治療研究、韓国社会福祉発達史、社会問題と社会政策、社会運動と社会政策、社会調査資料分析論、社会福祉館及び従事者論、家族福祉、臨床社会事業、夫婦治療、薬物誤用と社会福祉実践、質的研究方法論
社会政策専攻	社会政策分析とプログラム評価、現代社会福祉論、社会政策理論、社会政策理論、福祉国家論、社会保険論、社会開発理論、社会扶助論、社会福祉法制論、児童福祉政策、青少年福祉政策、老人福祉政策、女性福祉政策、家族福祉政策、住宅政策論、児童保育政策、共同募金、地域社会福祉協議会、産業福祉
社会事業専攻	社会事業実践 I、II、人間と社会環境、社会事業演習、ボランティア論、青少年福祉、障害者福祉、女性福祉、児童保育プログラム開発、社会福祉倫理と哲学、社会事業方法論、青少年非行論、個別社会事業方法論、集団社会事

	業方法論、結婚と家族関係、施設保護事業、医療社会事業、家族及び家族治療
--	-------------------------------------

例2) ソウル大学の場合、より簡単に構造化されている。

専攻	年次	春学期	秋学期
政策	1	福祉国家論、社会福祉政策論	比較社会政策論、韓国社会福祉における現実と争点
臨床	1	社会福祉サービス論 社会福祉実践モデルと技術	社会福祉サービス伝達論（隔年） 障害者福祉サービス論（隔年） 女性福祉サービス論（隔年）
共通	1 2	社会福祉統計 上級社会福祉実習 大学院論文研究	上級社会福祉実習 1、2 大学院論文研究

### 3) 示唆

—大学院（修士）の場合、科目の数が多すぎるのは単なる学部の繰り返しになる可能性があるため、関心分野についての深化学習ができるように段階的にできるようなカリキュラムをつくる必要がある。

—社会福祉という学問の特徴から、実践現場と制度のついで理解は欠かせないため、実践的経験と政策、世界的なトレンドについての理解と討論等学生主導の演習・学習の強化が必要される。

—日本がアジアについての理解を強調するのは重要なことであり、韓国の学界も関心を持つべきである。

#### ◎ 同志社大学カリキュラムに関する質問

1. 社会福祉学科の目的に‘人間資源開発’だけがある‘社会問題解決の能力涵養’を追加するのは如何か。
2. 人間資源開発の指標に、学生への‘問題意識及び現実認識’に関する教育の方向の追加が必要ではないか。